

第62回関西財界セミナー

目指すべき社会と経済を考える  
～ アダム・スミスを起点として ～

2024年2月8日

堂目卓生

大阪大学総長補佐  
大学院経済学研究科教授  
社会ソリューションイニシアティブ長  
「いのち会議」事業実行委員会副委員長／市民部門長

t-dome@econ.osaka-u.ac.jp

堂目卓生（どうめ たくお）

大阪大学総長補佐／大学院経済学研究科教授／社会ソリューションイニシアティブ長

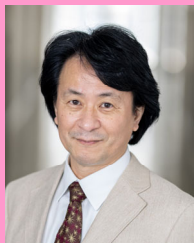
## 「善にある」世界



1988年、京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。専門分野は経済学史、経済思想。*Political Economy of Public Finance in Britain 1767-1873* (Routledge 2004) で日経・経済図書文化賞、『アダム・スミズー「道德感情論」と「国富論」の世界』（中央公論新社、2008）でサントリー学芸賞を受賞。

越境

## 「善をなす」世界



2018年、大阪大学にシンクタンク「社会ソリューションイニシアティブ（SSI）」を創設。2050年を視野に「命を大切にし、一人一人が輝く社会」を目指し、「まもる」「はぐくむ」「つなぐ」視点から社会課題に取り組む。2023年、「いのち会議」事業実行委員会副委員長に就任、2025年「いのち宣言」の発出を目指す。

# 近代の危機

# 今、問うべき問題

日本： 人口減少、高齢化、少子化、地方の衰退、所得格差の拡大、  
自然災害等

世界： 人口増大、貧困、格差、環境破壊、伝染病、紛争、エネルギー等

→ SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

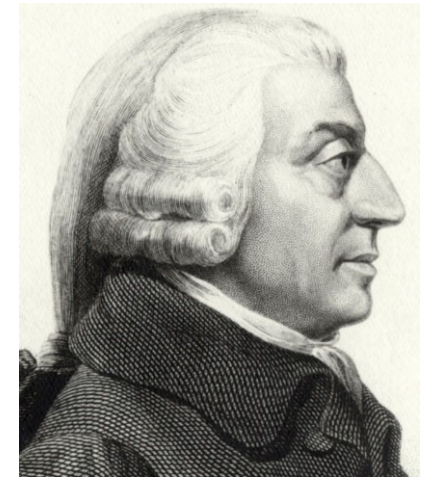
日本を含む世界＝底にいくつかの穴が空いている船

- ・ どのようにして穴を塞ぐか？
- ・ 船をどこに向かわせるべきか？



経済学者が目指したさまざまな社会

# アダム・スミスの時代と生涯



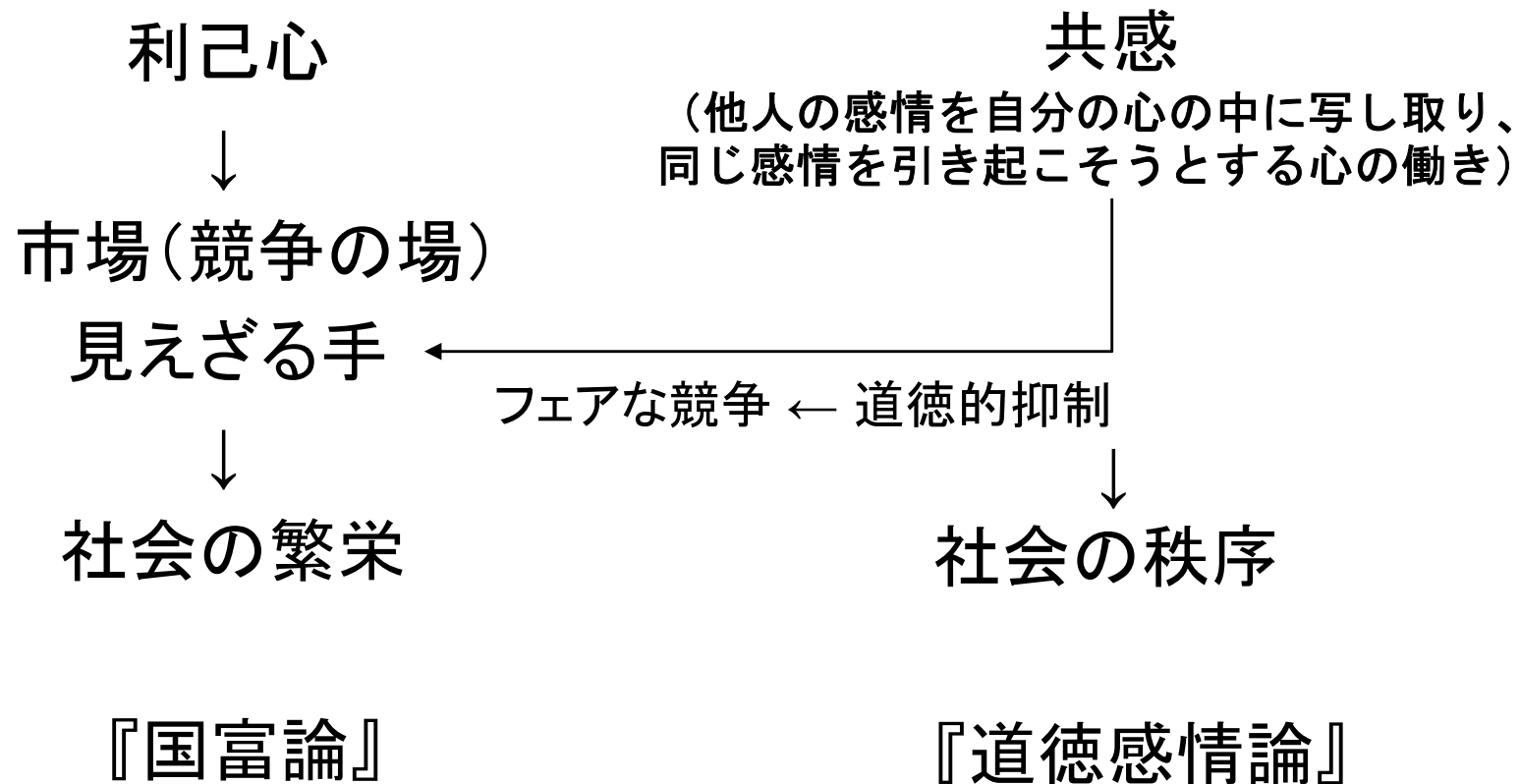
## スミスの時代

- 1688 名誉革命
- 1701 スペイン継承戦争(ー1713)
- 1707 スコットランドの合邦
- 1740 オーストリア継承戦争(ー1748)
- 1744 フランスと植民地戦争を始める
- 1745 ジャコバイトの反乱
- 1756 英仏七年戦争(ー1763)
- 1763 フランスからカナダを割譲
- 1764 ジェニ, 紡績機を発明
- 1765 ワット, 蒸気機関を発明
- 1775 アメリカ独立戦争勃発
- 1776 アメリカ独立宣言
- 1783 アメリカの独立を承認
- 1789 フランス革命勃発

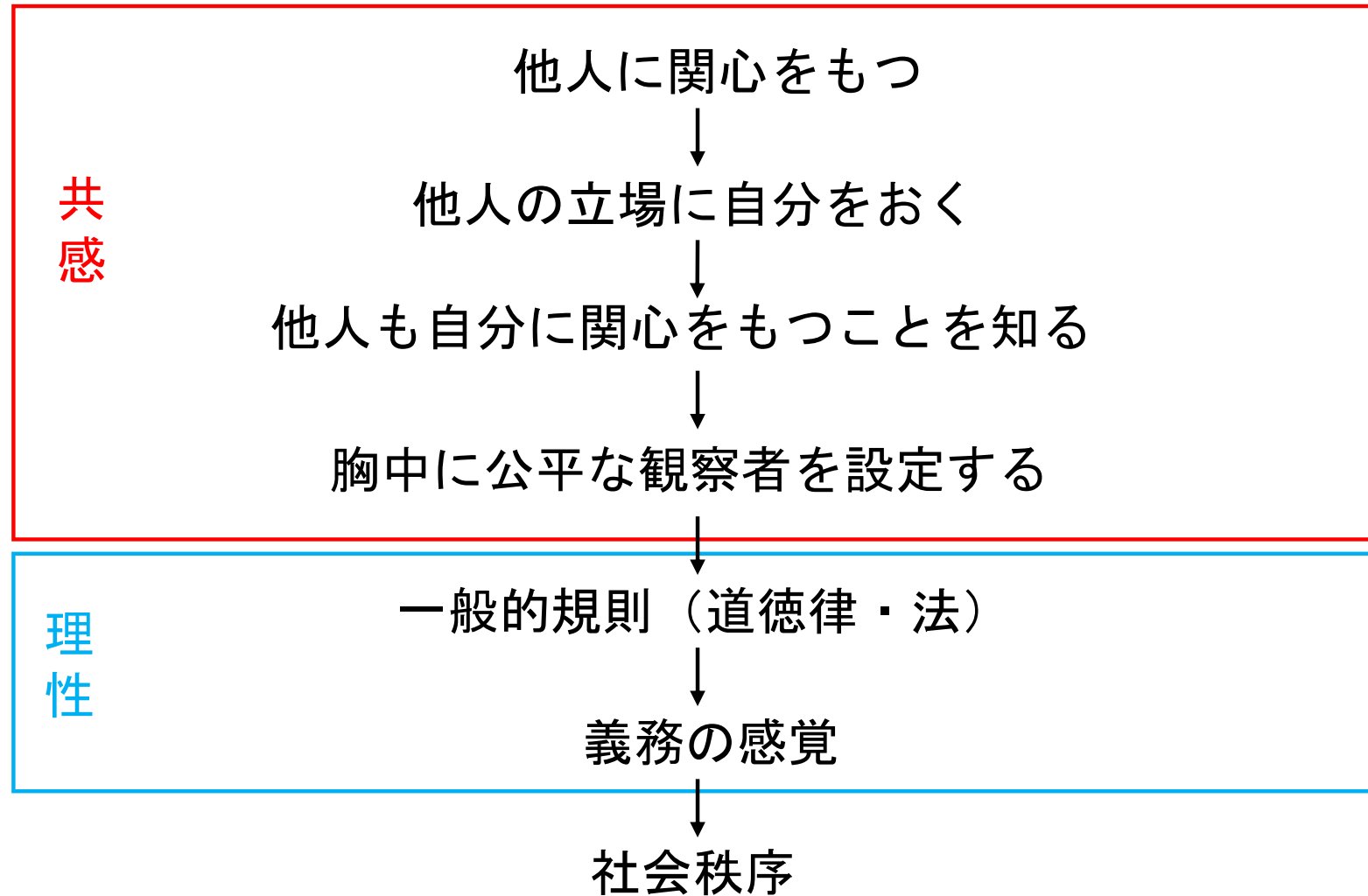
## スミスの生涯

- 1723 税関吏の次男として生まれる
- 1737 グラスゴー大学に入学
- 1740 オックスフォードに学ぶ
- 1751 グラスゴー大学の論理学教授
- 1759 『道徳感情論』を出版
- 1763 グラスゴー大学を退職。貴族の家庭教師となり, ヨーロッパを旅行
- 1766 イギリスに帰国
- 1776 『国富論』を出版
- 1778 スコットランド関税委員に就任
- 1790 没す

# スミスの通俗的イメージと真意

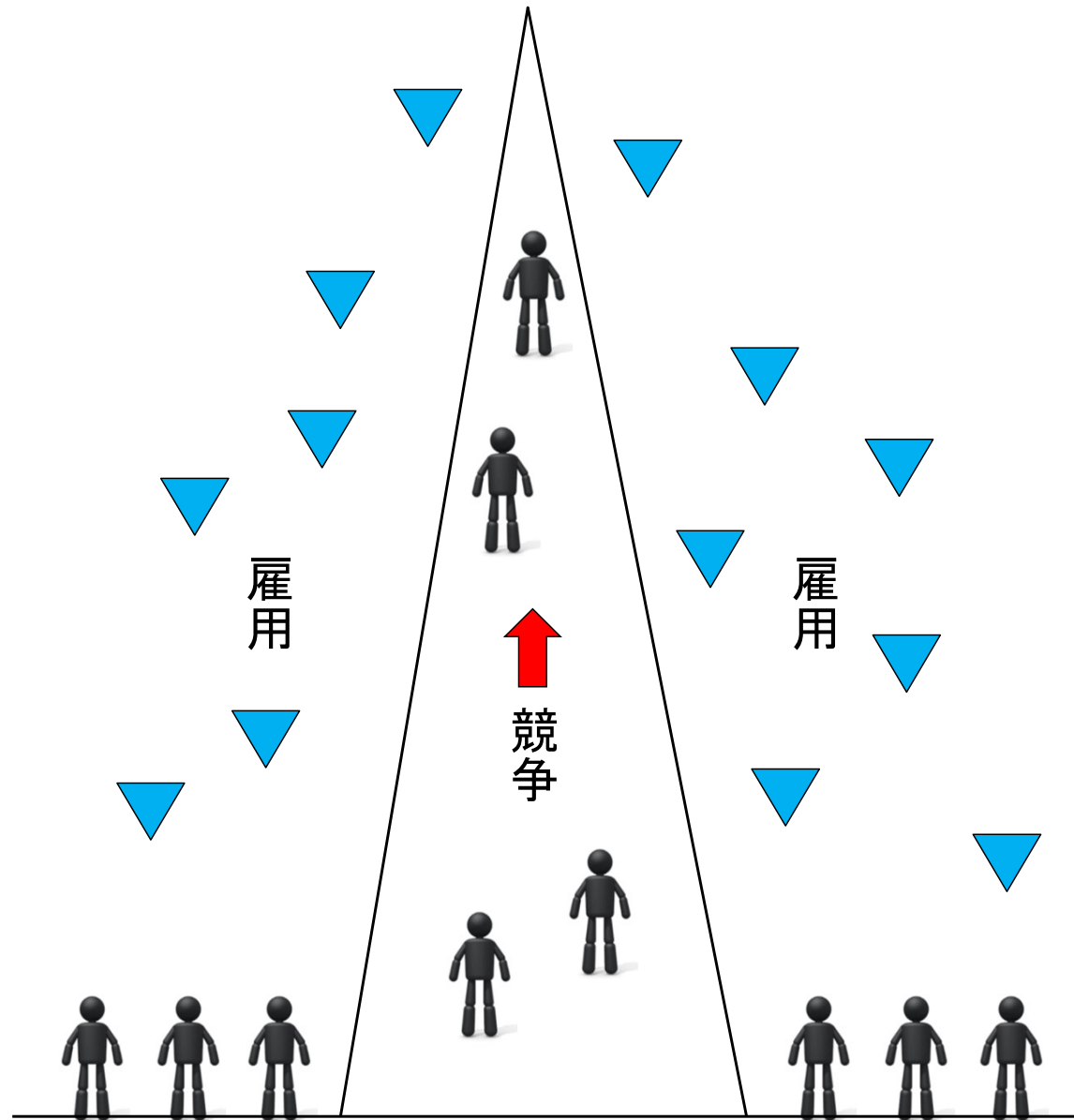


# 共感を基礎とする社会秩序





# スミスが構想した社会：資本家によるフェアな競争によって 労働者に雇用と収入が行き渡る社会



## スミスが残した課題

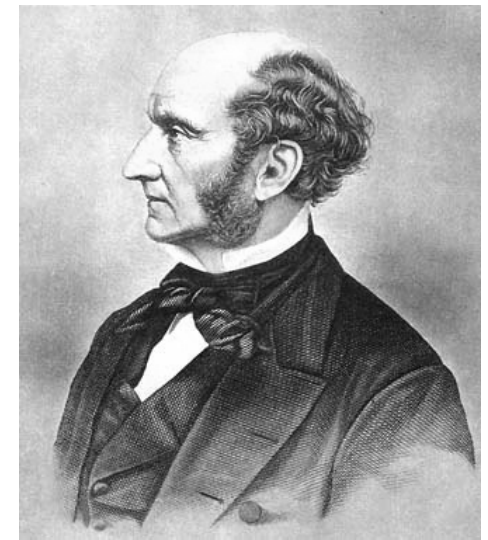
(1) 競争に参加できない人びとを包摂すること

(2) 国や民族、文化や宗教の違いを乗り越えて、道徳を共有すること



いかにして「分断」を乗り越えて「共感」を広げ、  
「開かれた公平な観察者」を形成するか？

# J. S. ミルの時代と生涯



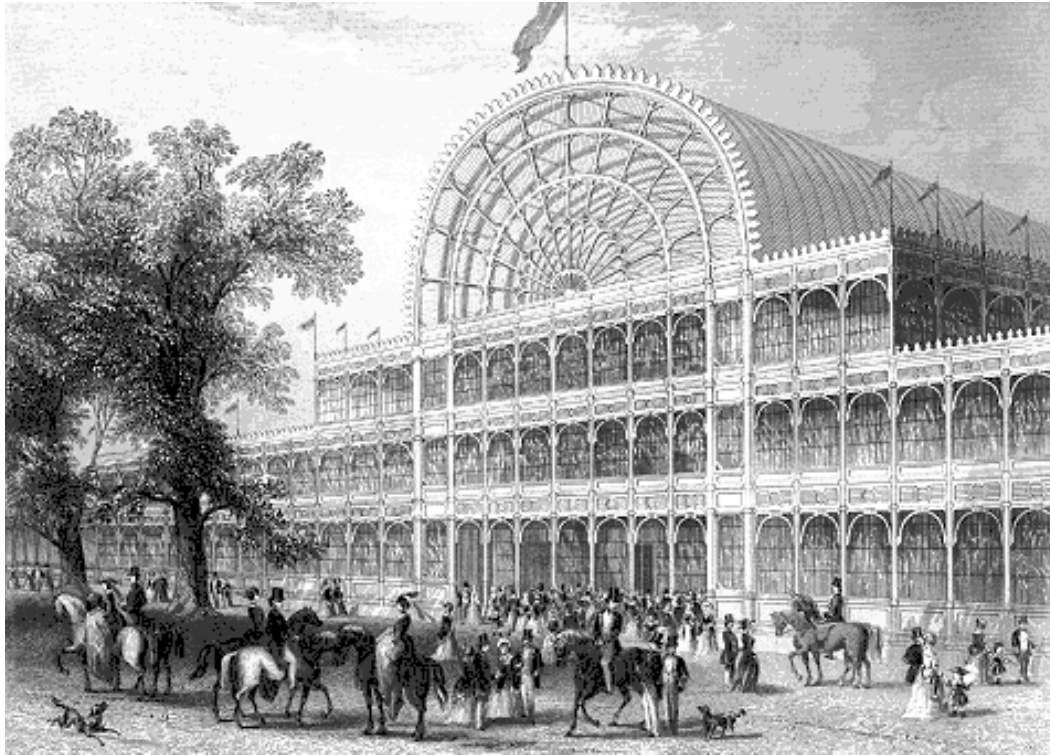
## ミルの時代

- 1830 マンチェスター・リバプール間に鉄道開通
- 1832 第一次選挙法改正
- 1834 救貧法改正
- 1837 ビクトリア女王即位
- 1840 アヘン戦争
- 1844 銀行条例、金本位制の確立
- 1845 アイルランド大飢饉
- 1846 穀物法廃止
- 1848 ヨーロッパで革命起こる
- 1849 航海条例廃止
- 1851 ロンドン万国博覧会
- 1858 インド統治法通過
- 1867 第二次選挙法改正

## ミルの生涯

- 1806 ロンドンで誕生
- 1809 父の厳格な教育
- 1823 東インド会社に入社
- 1826 精神の危機
- 1836 父死す
- 1848 『経済学原理』
- 1851 ハリエット・テラーと結婚
- 1854 母死す
- 1858 ハリエット・テラー死す
- 1859 『自由論』
- 1861 『代議制統治論』『功利主義論』
- 1869 『女性の解放』
- 1870 土地改革保有協会の設立
- 1873 フランスのアビニオンで死す

# ロンドン万国博覧会(1851)



キング・コレラの王宮 (1852)  
(『パンチ素描集』より)

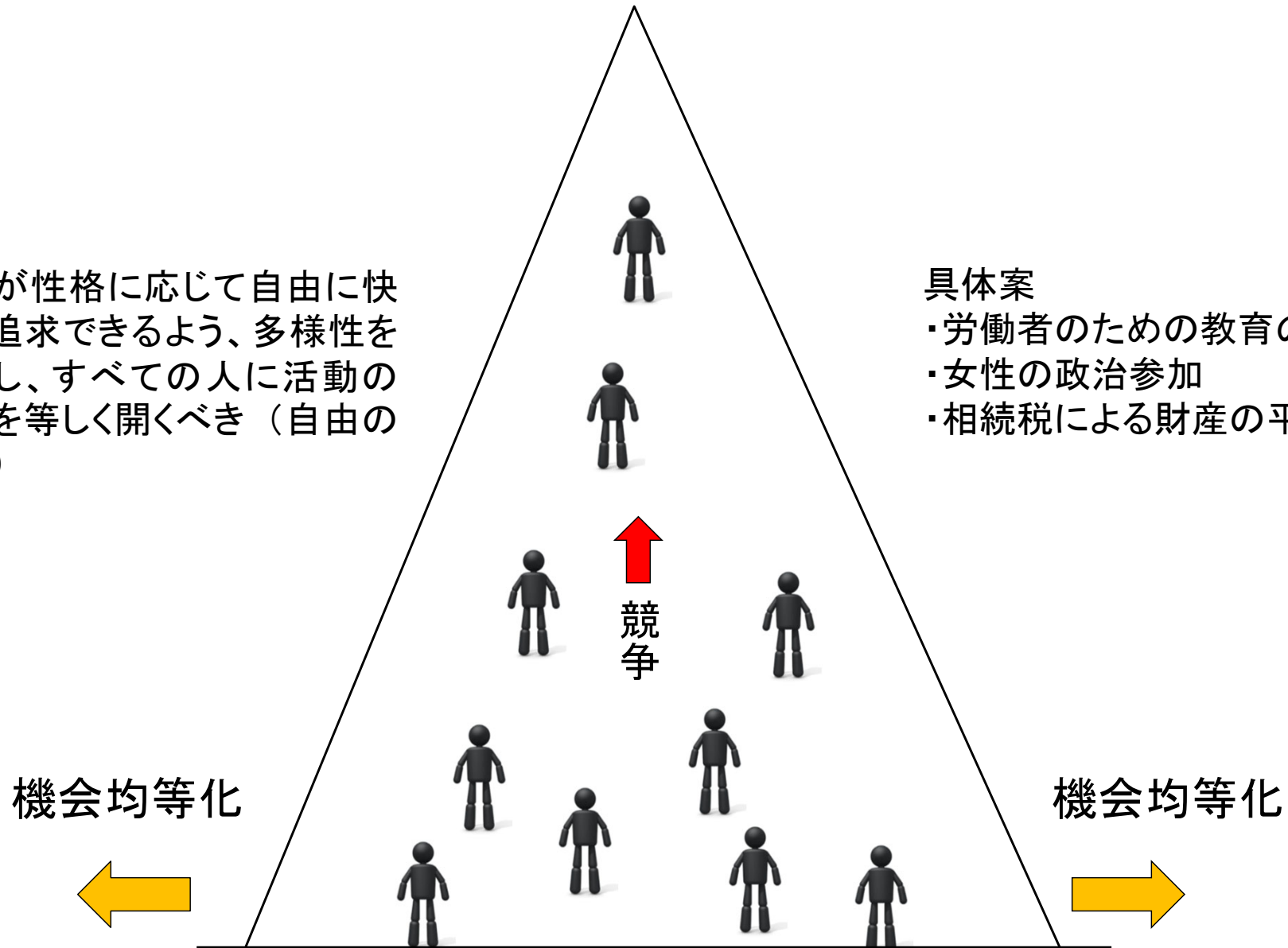
A COURT FOR KING CHOLERA.

# ミルが構想した社会：機会を均等化することによって、すべての人が競争に参加できる社会

個人が性格に応じて自由に快楽を追求できるよう、多様性を容認し、すべての人に活動の機会を等しく開くべき（自由の原理）

具体案

- ・労働者のための教育の普及
- ・女性の政治参加
- ・相続税による財産の平等化



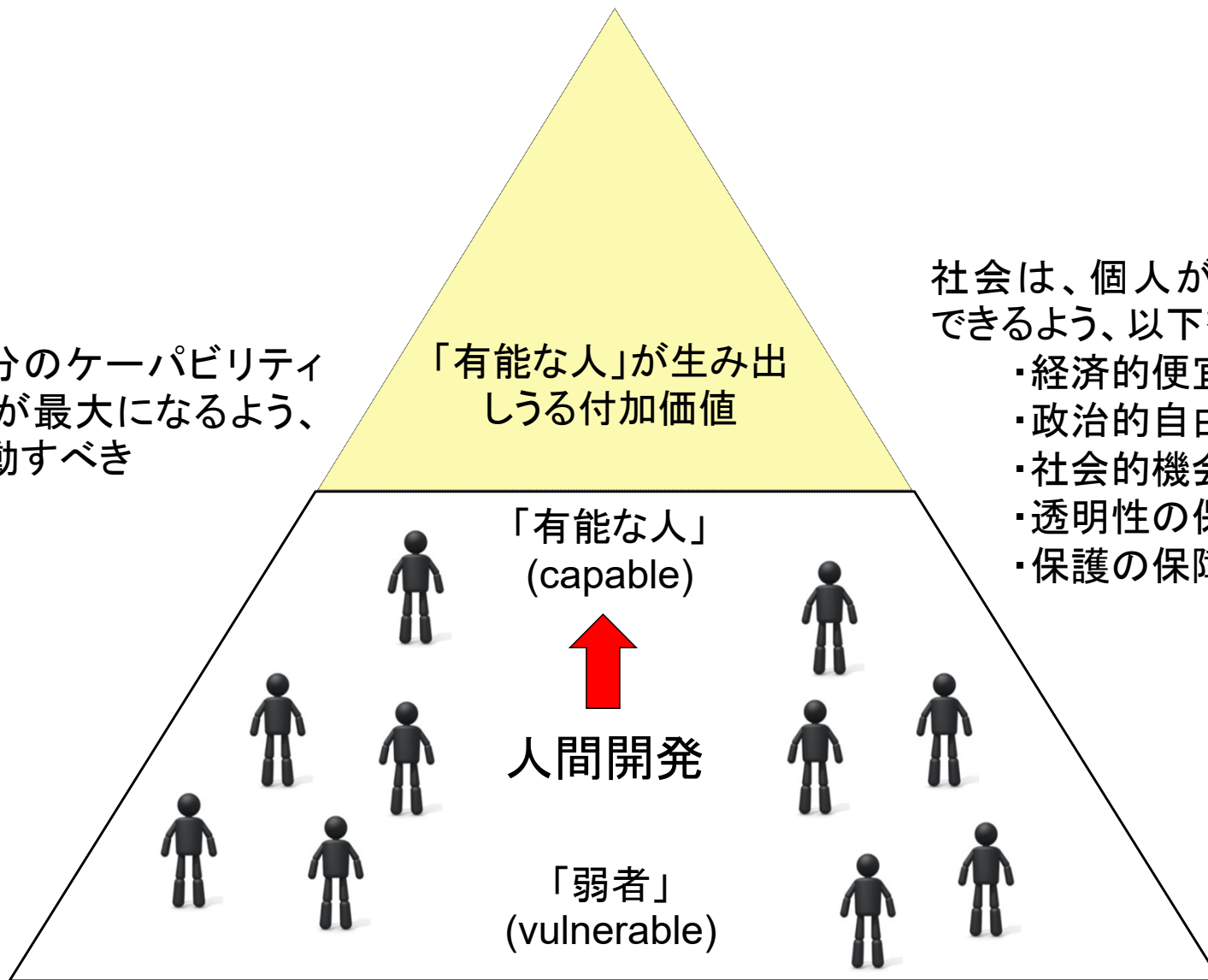
# アマルティア・センの生涯



- 1933 イギリス支配下のインド、ベンガル(現バングラデシュ)で、ヒन्दウー教徒の家庭に生まれる。アジア人初のノーベル文学賞受賞者ラビンドラナート・タゴールから「永遠に生きる者」を意味する「アマルティア」の名を授けられる。
- 1942 ベンガル大飢饉。飢餓のために錯乱状態になった人が小学校に入ってきたのを目撃し、衝撃を受ける
- 1947 東西パキスタンの独立に伴い、インドに移住する
- 1959 イギリスのケンブリッジ大学で博士号を取得。その後、ケンブリッジ大学、デリー大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、オクスフォード大学、ハーバード大学などの教授を歴任。
- 1998 経済倫理学の樹立に対してノーベル賞が授与される。賞金の一部を使ってパラチ・トラストを創設。インドにおけるヘルス・ケアやジェンダーの平等を実現するために活動始める
- 1999 インドの文民に与えられる最高栄誉賞「パーラト・ラトナ」が与えられる

# センが構想する社会：「弱者」のケーパビリティの拡大を優先する社会

個人は、自分のケーパビリティ（選択の幅）が最大になるよう、主体的に行動すべき



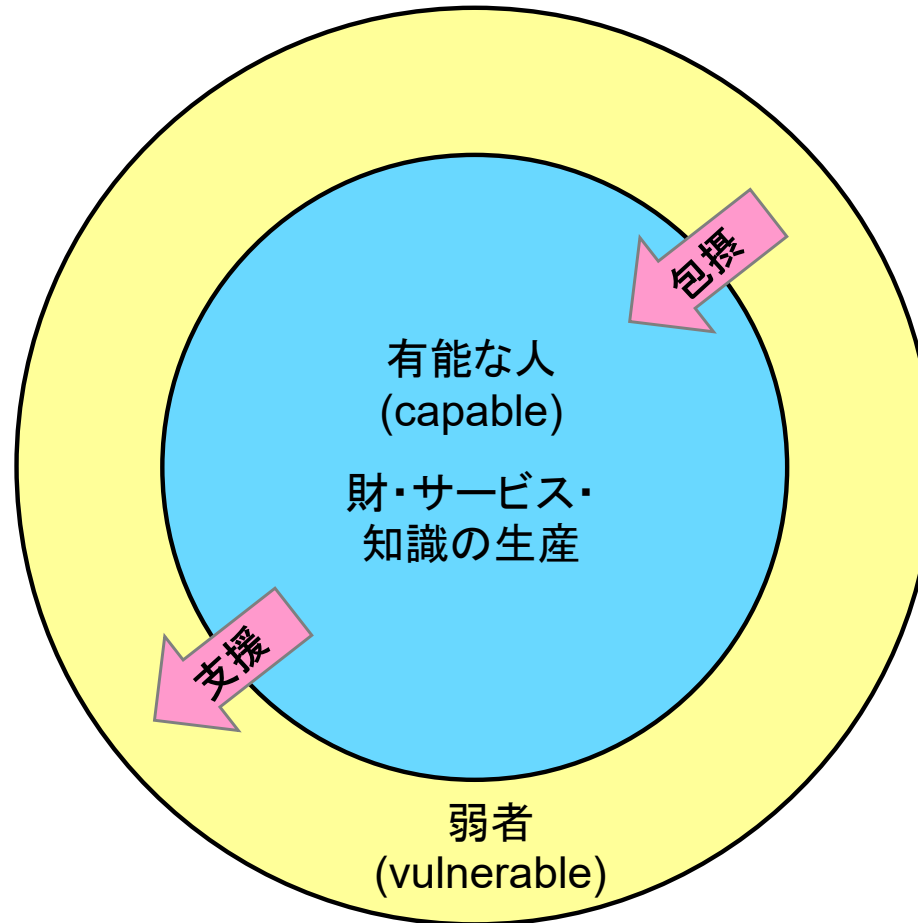
社会は、個人が積極的に行動できるように、以下を整備すべき

- ・経済的便宜
- ・政治的自由
- ・社会的機会
- ・透明性の保障
- ・保護の保障

近代の社会観を超えて



# 近代社会の基本構造



「弱者」(vulnerable)は「有能な人」(capable)から一方的に助けられるだけか？

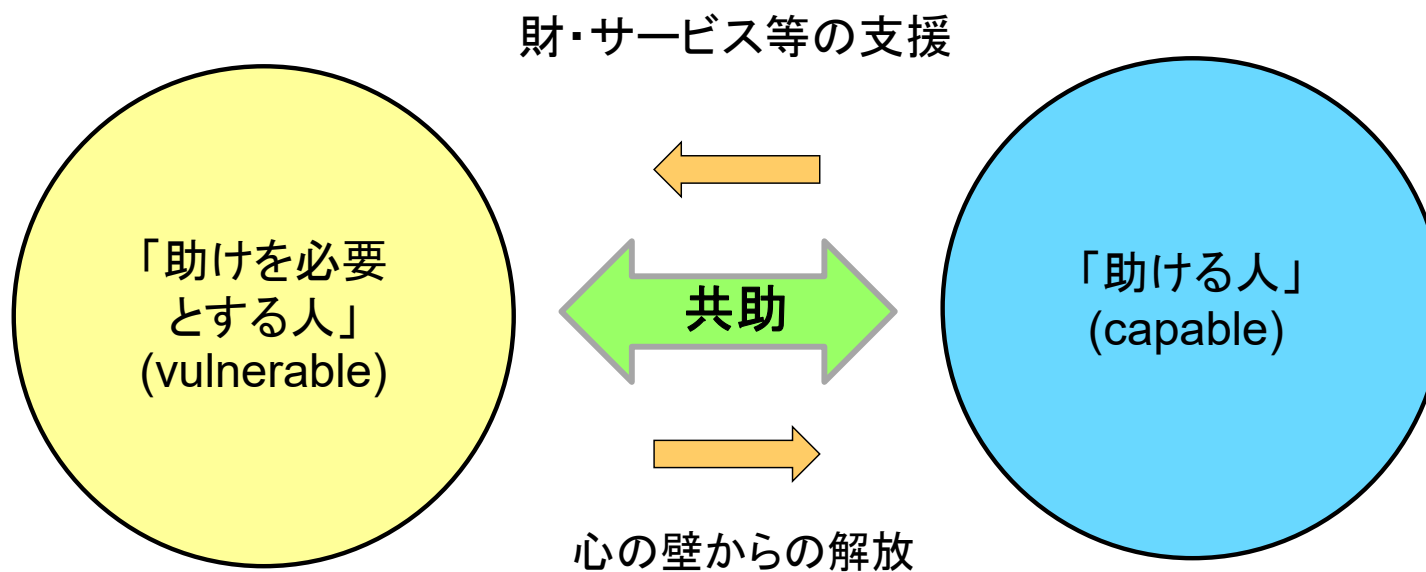
# かなの家 [\(https://larchejapankana.localinfo.jp/\)](https://larchejapankana.localinfo.jp/)



# かなの家の考え方

- ・障がいのある人がない人を一方的に助けるというのではなく、障がいのない人がある人と共に生活し、彼ら彼女らの心の傷や友情の求めに向き合い、心を開くことによって、自分自身の心の壁をとり払うべき
- ・人間は誰もが過去に受けた心の傷や恐れを封じ込めるための壁を心に作って自分を守るとともに、傷や恐れを思い起こさせる他人を嫌い、遠ざけ、排除しようとしている
- ・人類が差別や暴力のない平和な社会に向かって進むためには、世の中から排除された人々に目を向け、接し、共に生き、友情を取り結んでいかななくてはならない
- ・心の壁を取り払わなくてはならないのは、排除された人々よりも、むしろ排除する人々である
- ・知的障がい者をはじめとする、世の中から排除されている人たちこそ、人間を解放し、社会の未来に貢献する可能性を持っている

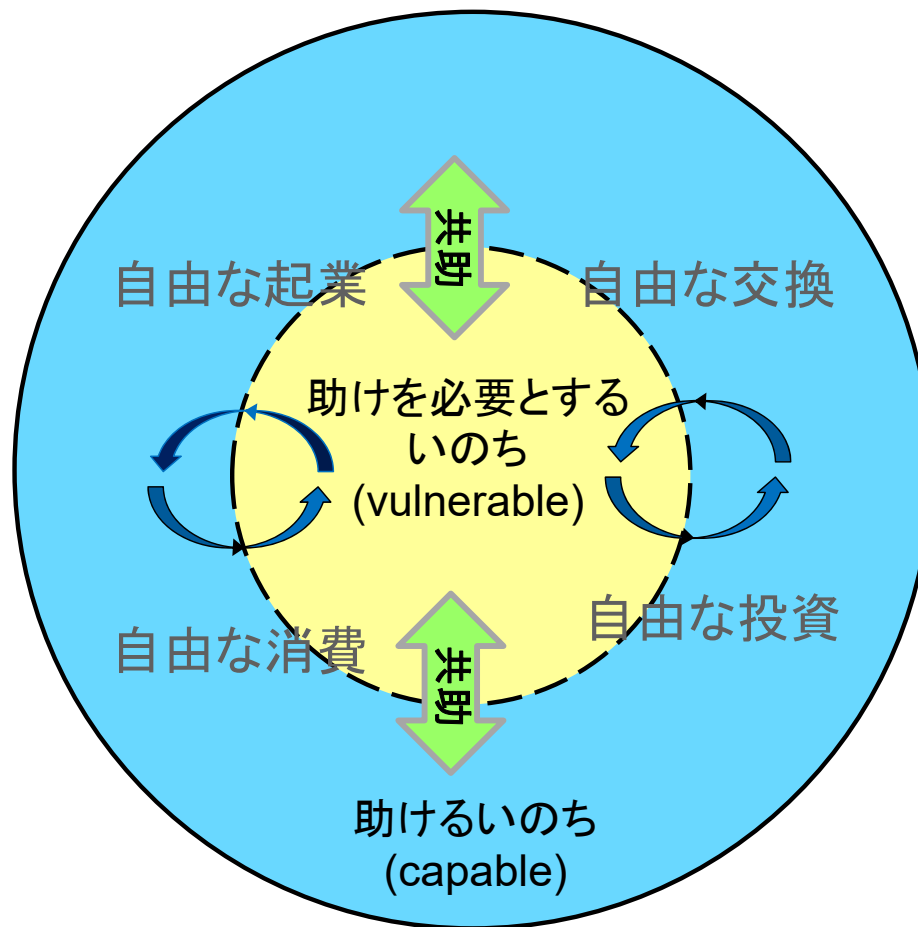
# 「助けを必要とする人」と「助ける人」との間にある共助関係



目指すべき経済と社会

# コロナ新時代において目指すべき社会

「助けを必要とするいのち」と「助けるいのち」との共助社会

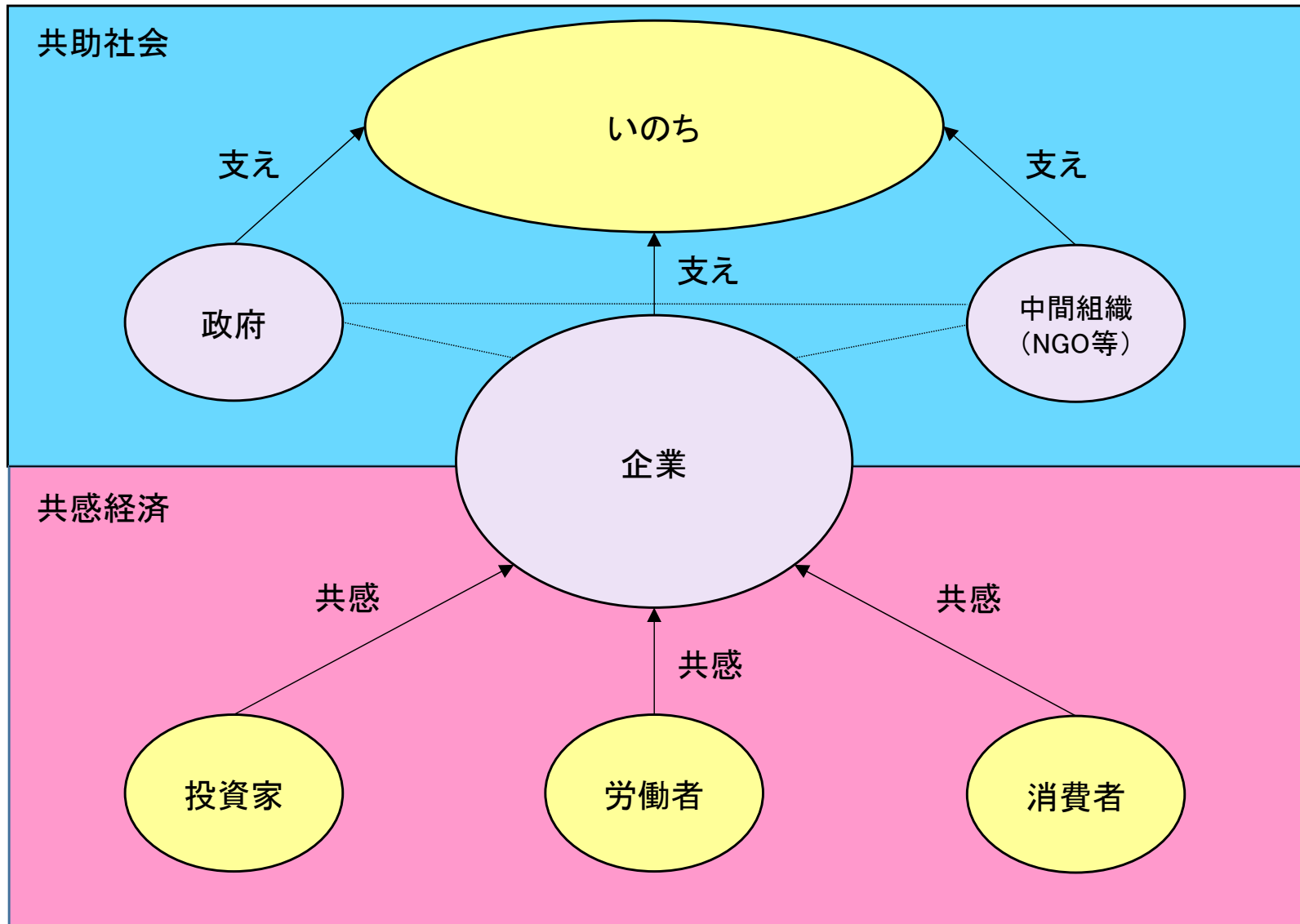


## グローバルなチャレンジ

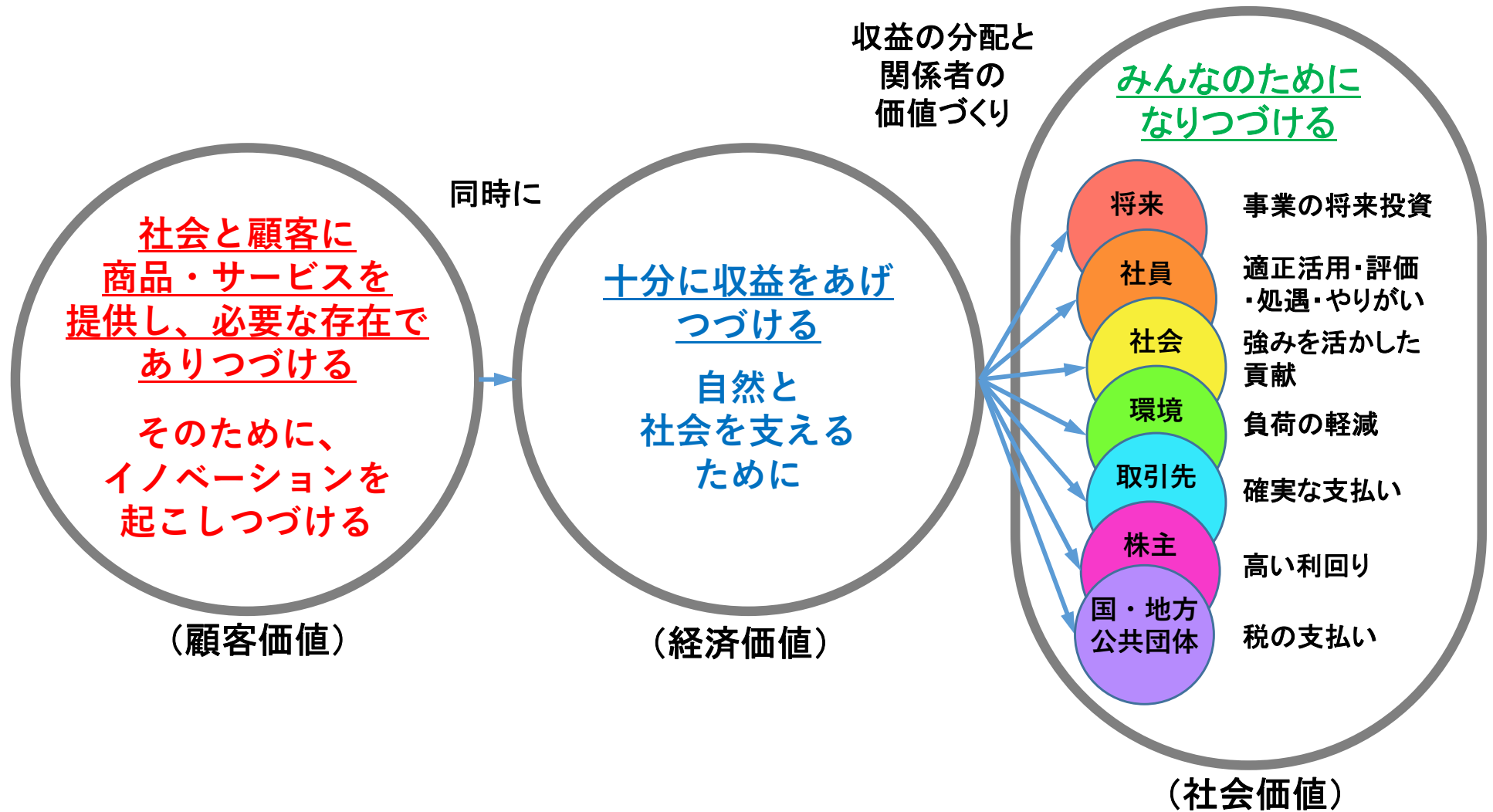
「誰一人とりのこさない」(SDGs 2030)

「いのち輝く未来社会のデザイン」(大阪・関西万博 2025)

# 共助社会を支える共感経済



# 「売り手」である企業は共助の要

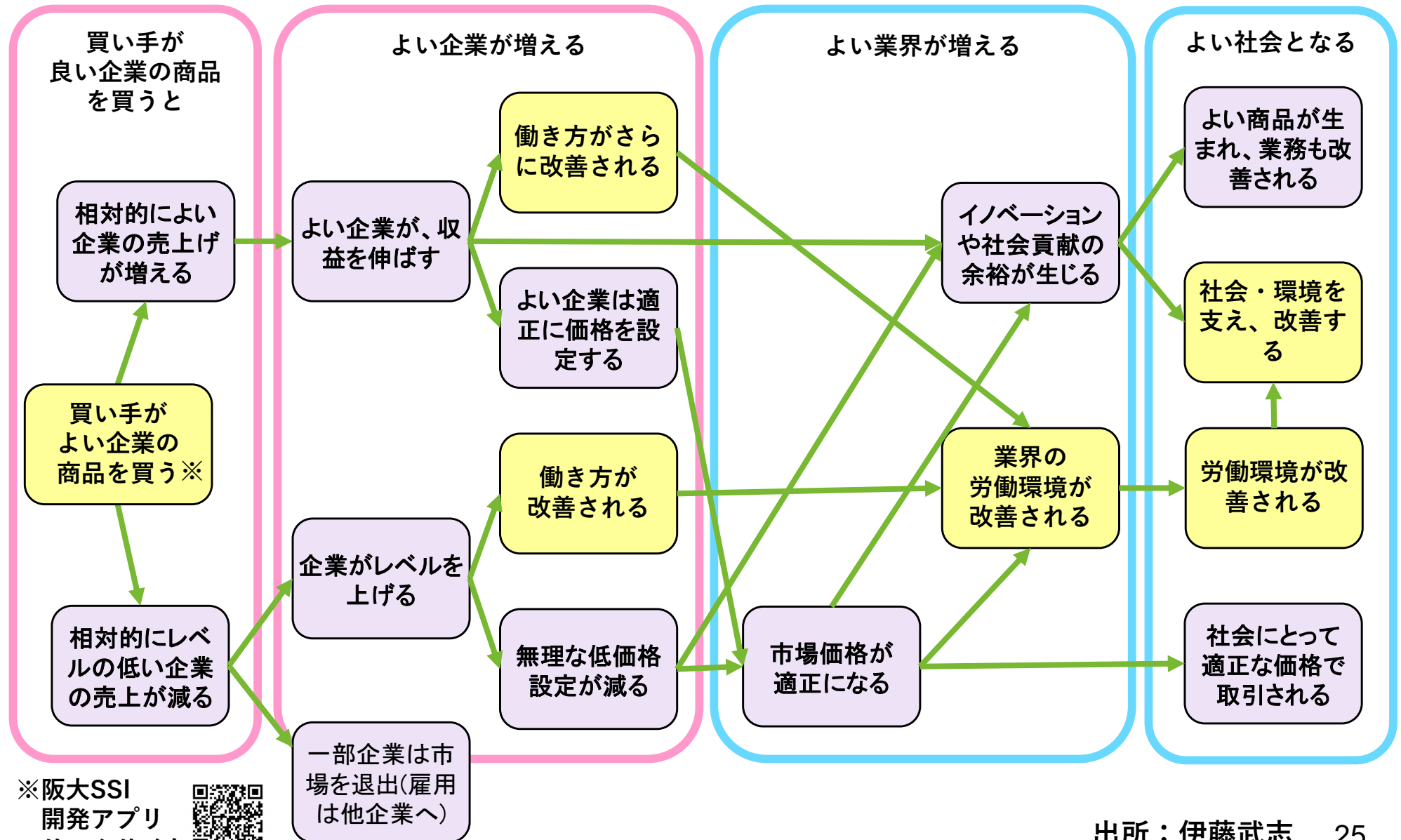




# 「買い手」の共感によって変わる企業・業界・社会

共感経済を実現する


共助社会を支える



※阪大SSI  
開発アプリ  
リンクサイト



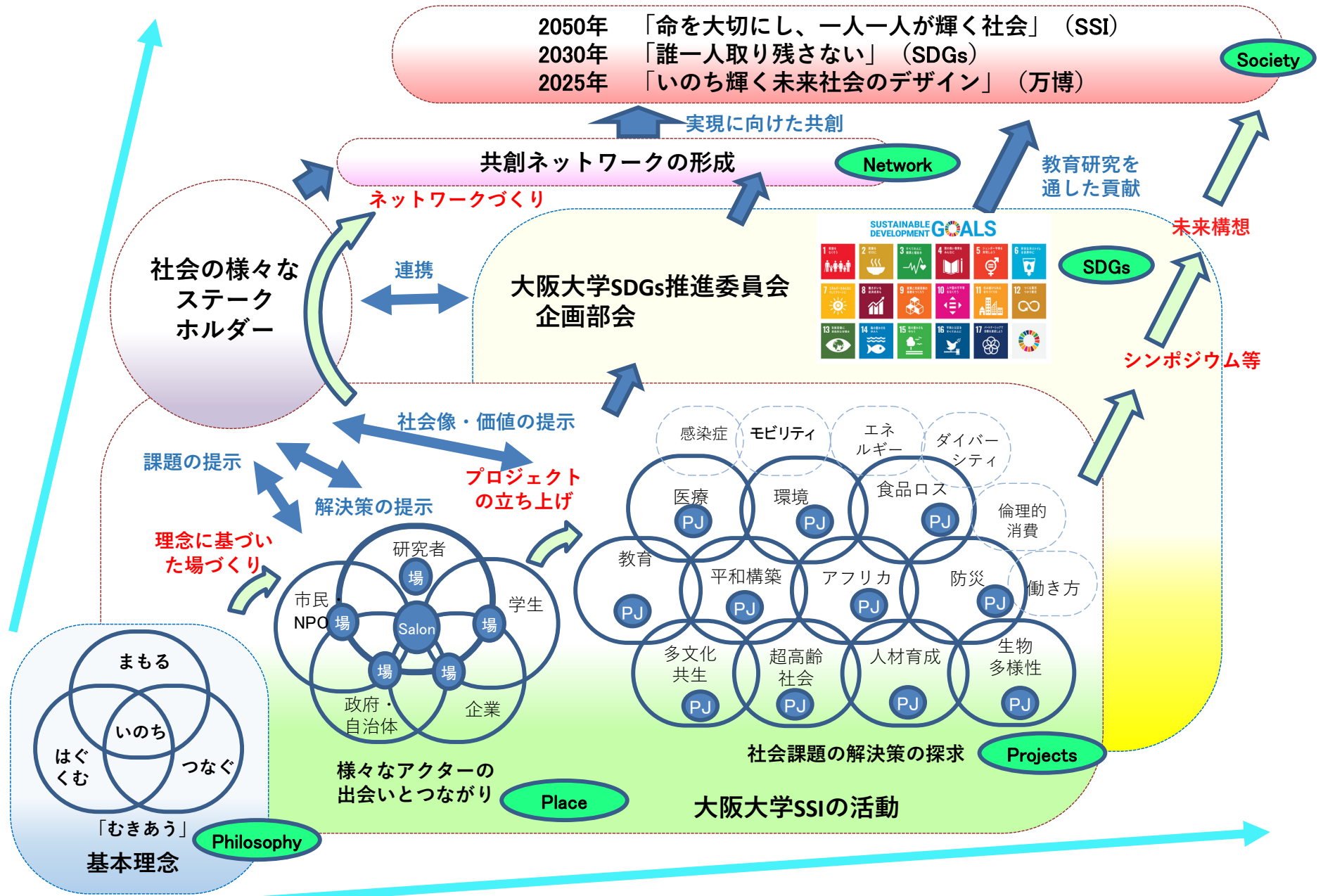
私の実践



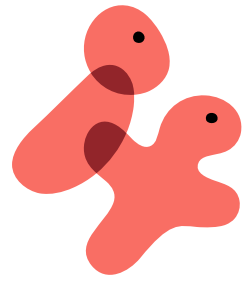
大阪大学  
社会ソリューションイニシアティブ (SSI)  
について



社会ソリューションイニシアティブ (SSI)  
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE



大阪・関西万博



# いのち会議

INOCHI FORUM



すべてのいのち輝く  
未来社会実現のために

「いのち会議」事業推進協議会



## 「いのち会議」

「いのち」とは何か、「輝く」とはどういうことか、「誰一人取り残さない」ために何をなすべきかを、あらゆる境を越えて考え、話し合い、それぞれが行動に移す場。グローバルな規模での産官学民による共創によって、2025年万博において「いのち宣言」を発信する。2025年以降も万博のレガシーとして継続し、SDGsを推進し、SDGsの次のゴールを構想する拠点とする

(2023年3月24日に大阪大学、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所によって発足)

## 「いのち宣言」

「すべてのいのちが輝く社会」の実現を見据え、2030年のSDGs達成に向けて何が重要か、さらには、SDGsの次のゴールを策定する上で何を考慮に入れなくてはならないかなどを示すアジェンダ。2025年以降の「いのち会議」の活動を支える理念的基礎とする

## 活動 1 「いのち会議」の開催

- ①企業、NPO/NGO、政府・地方自治体等がアカデミアとともに、様々なテーマで議論を開始（市民部門）。20代までの学生など若者を中心に議論も開始（ユースチーム）
- ②アカデミアを中心に海外の人々と、「いのち輝く未来社会」についてのビジョンを学術的な基盤に立ちながら描く（国際部門）

## 活動 2 SDGs と SDGs+beyond のテーマに即した「アクションパネル」による活動

共創チャレンジ・共創パートナーを含む多くの産官学民のメンバーが連携し、防災、エネルギー、ジェンダー、貧困などSDGsのテーマや、科学技術、アート、スポーツ等、SDGs+beyondのテーマに分かれてアクションパネルをつくり、課題解決に向けた活動を推進する

## 活動 3 「いのちの声（共創ボイス）」の集積と分析

ありたい社会、実現したい未来について、若者や子どもたちも含めた小さな声を広く集める。AIを活用し、各種会議・テーマ・共創チャレンジ・SDGsとの関係を整理し、いのち会議やアクションパネルの活動につなげる

## 活動 4 万博会会中に「いのち宣言」を発信

各部門での議論、アクションパネルの成果、共創ボイスをとりまとめ、「いのち宣言」として開催期間中に発信する

今あるいのちを見つめ、  
誰一人取り残さない  
行動を進める

## 大阪・関西万博 いのち会議

いのちを輝かせる  
未来像を描く

### 市民部門

企業、NPO/NGO、  
政府・地方自治体等が  
アカデミアとともに、  
様々なテーマで議論



その他  
チーム

アクション  
パネル

共創ボイス

未来を担う若者が  
声を上げ、  
活動する



GLOBAL

### 国際部門

アカデミアを中心に海外の  
人々と、「いのち輝く未来社会」  
についてのビジョンを  
学術的な基盤に立ちながら  
描く

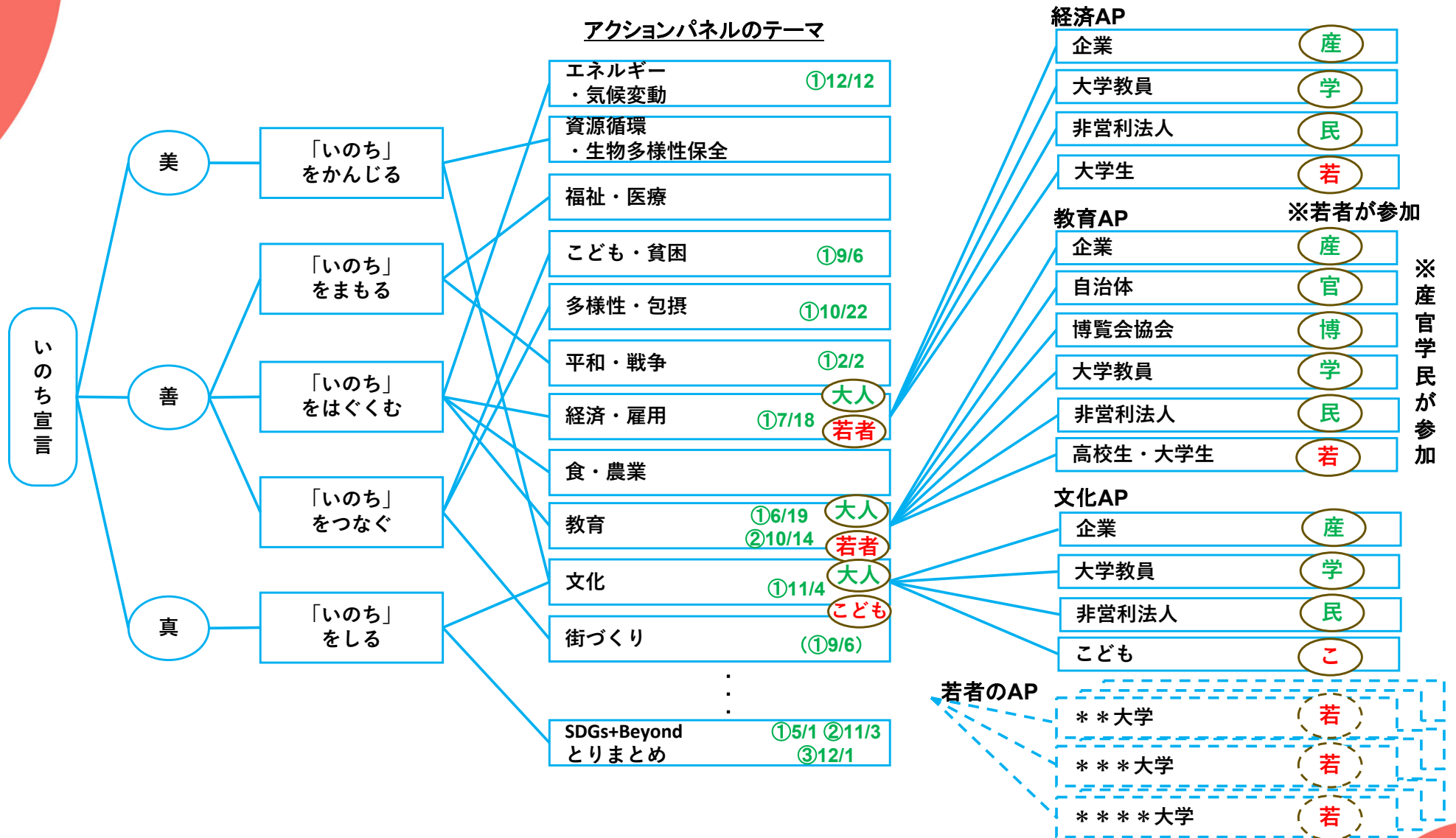


いのち  
とは？

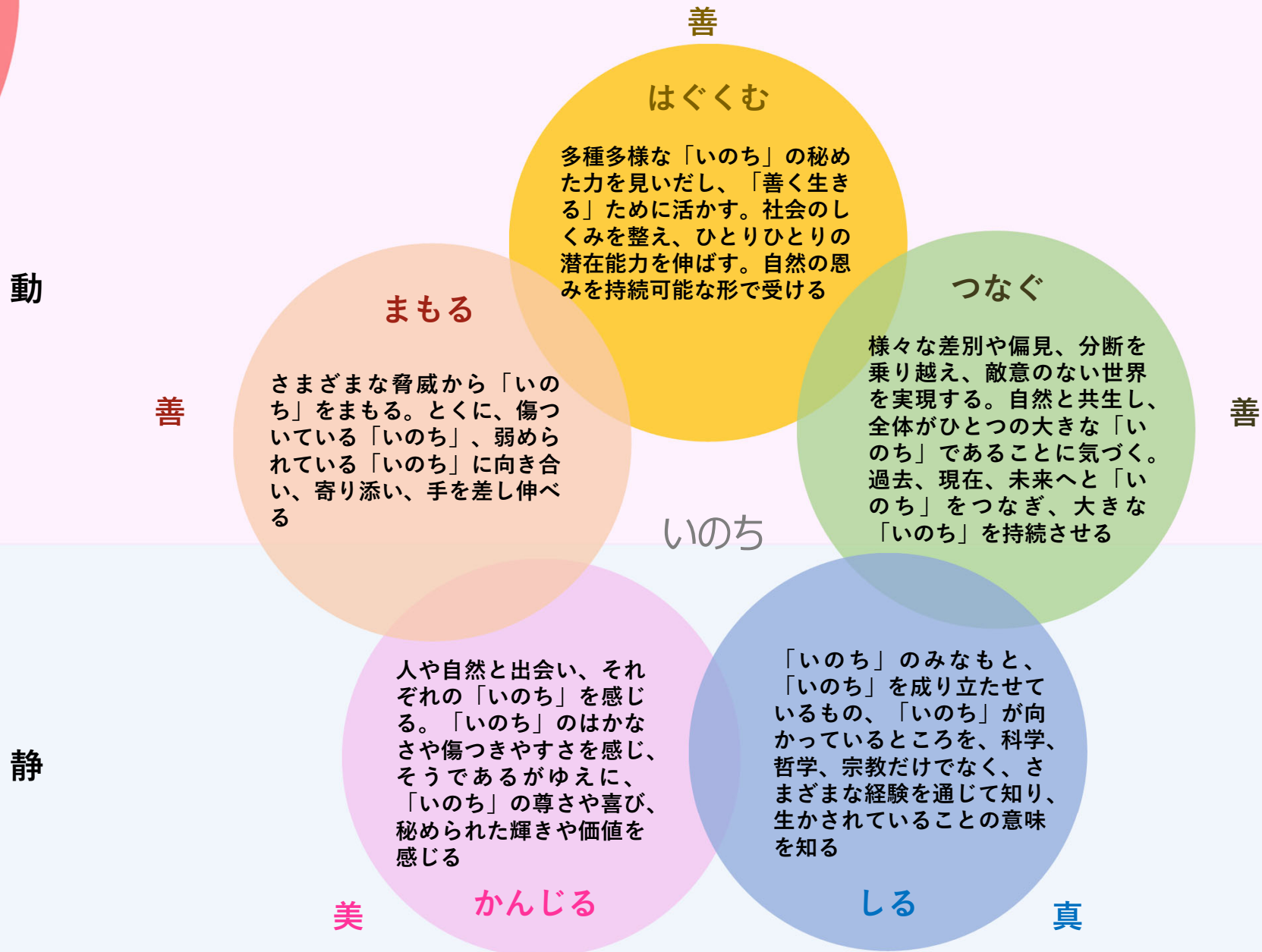
科学の  
限界？



# アクションパネルの実施状況



# 「いのち宣言」のフレームワーク（私案）



# 「いのち宣言」と「いのち会議」を起点に開く未来

この取組のアクションによって、「いのち宣言」に加えて、以下のようなソフトレガシーが創られる。

SDGs達成とSDGs+Beyond実現に向け、万博後もテーマ別アクションを含むいのち会議を継続

いのち宣言に向け構築されたグローバル規模での産官学民の「共創ネットワーク」

いのち会議への主体的な参画を通じて育成される、持続可能な未来を担う次世代人材



# 私たちが為すべきこと

「いのち」に立ち返り、目指すべき社会と経済を構想する



日本社会およびグローバル社会において、何が課題か、その課題の解決のためには何が必要か、あるいは何ができるかを考える



与えられた場において、仲間を作り、実験し、行動する

私の場合：大阪大学社会ソリューションイニシアティブ／いのち会議



ソーシャル・ムーブメントを起こす

重要なのは「できる」か「できない」かではなく、「なす」か「なさない」か

# 参考文献

- Smith, A. (1759) *The Theory of Moral Sentiments*, London. (水田洋訳『道徳感情論』, 全2巻, 岩波書店, 2003年)
- Smith, A. (1776) *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*, London. (杉山忠平訳／水田洋監訳『国富論』, 全4巻, 岩波書店, 2000-2001年)
- Mill, J. S. (1859) *On Liberty*, London. (山岡洋一訳『自由論』, 光文社, 2006年)
- Sen, A. (2006) *Identity and Violence: The Illusion of Destiny*, W .W. Norton. (東郷えりか訳／大門毅監訳『アイデンティティと暴力 - 運命は幻想である』, 勁草書房, 2011年)
- Sen, A. (2009) *The Idea of Justice*, Harvard University Press. (池本幸生訳『正義のアイデア』, 明石書店, 2011年)
- 堂目卓生 (2008) 『アダム・スミス - 「道徳感情論」と「国富論」の世界』, 中央公論新社
- 堂目卓生 (2021) 「市場原理と共感 - 経済学が辿ってきた道」, 藤山知彦編『規範としての民志主義・市場原理・科学技術 - 現代のリベラルアーツを考える』, 東京大学出版会
- 堂目卓生 (2021) 「共生社会と資本主義」, 中島隆博編『人の資本主義』, 東京大学出版会
- 堂目卓生・山崎吾郎編 (2022) 『やっかいな問題はみんなで解く』, 世界思想社
- Zwitter, A. and T. Dome eds (2023) *Meta-Science: Toward A Science of Meaning and Complex Solutions*, University of Groningen Press